

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
「力を合わせ 心豊かに ともに伸びる」 浜玉中三訓 「あいさつ 時間 掃除」 礼を尽くし 時を守り 場を清める	① 学力の定着と向上 ② 心の教育の推進と道徳教育の充実 ③ キャリア教育の推進 ④ 地域とともにある学校づくり

**3 目標・評価**

**① 主体性を持って、学びあい、確かな学力を身につける生徒の育成**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学び合いの活用による確かな学力の向上	・TT、「学び合い」などの授業の工夫・改善を図り、生徒の基礎学力の向上の徹底を図る。 ・学習規律の確立を図り、授業を大切に作る姿勢を育成する。 ・生徒同士で互いの考えを深めて高め合える授業を行い、昨年度より授業がわかると思う生徒を70%以上にする。	・各授業で、生徒一人一人が考える時間や発表・検討し合える時間を設定する。また、「学び合い」を踏まえた研究授業を全職員が年間一度は実施する。 ・4人組での少人数活動により発言しやすい環境を作り、生徒が安心して学べる場を作る。
	●ICT利活用教育の推進	・ICT利活用による生徒の学習意欲の向上	・全ての教員が、ICT機器を有効に使えるようにする。 ・授業におけるICTの利活用を通して、生徒の学習意欲を喚起し、ICTが役に立つという生徒・保護者の割合が70%以上になる。	・教員全員がICT機器を有効に活用できるよう、ICT利活用に関する研修を計画的に行う。 ・ICTの研修を通して、教師が電子黒板やデジタル教科書の活用をする能力の向上を図る。

**② 自他を尊重しながら、支え合い、社会の中で自立して生きていける生徒の育成**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	・浜玉中三訓の徹底(あいさつ・掃除・時間)	・基本的な生活習慣の定着を図り、自ら行動を起こし、自らを律することができる生徒を育て、浜玉三訓ができているという生徒が70%以上になる。 ・「立腰教育」を取り入れ、何事にも強い意志を持って取り組む生徒、自ら主体的に活動する生徒の育成を図る。	・学級や学年、全校で「立腰教育」に取り組むことで、基本的な生活習慣を確立させる。 ・保護者との連携を積極的に図ることで、校内・校外の環境作りに取り組む。 ・全職員で浜玉中三訓の取り組みを共通理解し、1日を通して、生徒に対して指導を行う。 ・学校行事等を通して、自主的な行動を促す指導に重点を置く。
	●心の教育	・自他を大切にし豊かな心を育てる仲間づくり	・教育相談を通して生徒理解に努める。 ・2回目の「QU」で学校生活への満足度をアップさせる。 ・各教科・道徳の時間を通して、一人一人の道徳的心情を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図り、よりよい人間関係をつくるように努力する。	・教育相談を定期的に行い、職員間で情報交換を行いながら生徒の心の育成を図る。 ・「QU」を年2回実施し、SCを有効活用しながら、人間関係作りで役立つ学習の場を設定し、よりよい集団の成長を促すと共に、教育相談の充実による生徒理解に努める。 ・道徳の時間を中心に教育相談や「QU」の結果を活用して教材研究を行う
	○特別支援教育の充実	・個々の生徒に応じたきめ細かい対応	・特別支援学級の学級経営案を作成し、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、支援を要する多様な生徒への適切な支援、具体的な対応ができるように、支援会議を定期的に行う。	・巡回相談、校内研修(特別支援教育)で、専門の見地からも助言や指導を受け、全職員の生徒への支援教育への意識の向上を促し、具体的な方策を決定する。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当者、特別支援担当教員と連携して情報交換を密にし、生徒の実態を把握すると共に、生徒に応じた対応を組織的に行う。
	●いじめ問題への対応	・いじめゼロ、いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・いじめの発生件数(認知件数)を0にする。 ・いじめの早期発見・早期対応を行い、生徒が安心して学校生活を過ごすことが出来る。	・QUテスト(2回)、いじめに関するアンケート(年3回)を実施し状況把握に努める。 ・年2回、教育相談期間を設け生徒一人ひとりの声を聴く。 ・生徒理解を積極的に行い、各関係機関と連携を填る。

**③ 地域への意識が高く、感謝の心を持ち、地域社会に貢献できる生徒の育成**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○小・中・地域連携	・小・中学校と地域との連携の充実・発展と開かれた学校づくり	・授業参観の参加率を60%以上にする。 ・地域の人材を活かした、サークル活動や各種ボランティアを通して、小・中学校と地域の連携を通して、学校が地域の発展に役立っていると思う生徒・保護者が70%以上になる。	・保護者との連絡を密にし、学年通信や地域への広報誌(浜玉っ子)等を通して啓発を図り、子どもへの理解・生活の改善を進める。 ・3つの小学校及び地域の講師と連携を密にし、各部会の運営を効果的に行う。 ・保護者との直接的コミュニケーションを図る。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育課題	●健康・体づくり	・運動習慣の改善と定着化 ・望ましい食習慣と自己管理能力の育成	・自己の健康体力の現状を把握し、体力の向上を図ると同時に、新体力テストで全国平均を上回る。 ・全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。	・個人ノートの活用、活動の場の工夫等により自ら進んで活動させ、体力向上を支援する。 ・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、保護者へ向け情報も提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目